

ニューヨークにおける東日本大震災を契機とした 募金イベントの開催状況について

ニューヨーク事務所

1 飲食業を中心としたアメリカでの東日本大震災募金活動

日本で行われるチャリティ募金は、駅前で募金箱を持って寄付金を集める、という形式が多く見られる。しかし、アメリカではレストランやバーを貸切にして、参加費や飲食費を寄付金とするイベントを開催することが一般的である。ここニューヨークでも、東日本大震災のチャリティ募金がレストランやバーのイベントで行われたり、飲食業関係者が売上の一部を寄付するイベントが行われている。

4月中旬から下旬にかけて、ニューヨークのTVニュース（ニューヨーク・ワン）の放送で、東日本大震災のチャリティ募金の報道が二度あった。そこでは2つの例が取り上げられており、1つ目は、日本食レストランでの一日の売上を全額寄付金とする、というものである。ニューヨーク郊外のスタテン・アイランドにある日本食レストランで行われ、一晚の売上8,800アメリカドルが、日本赤十字社に寄付された。また、2つ目は、料理レシピのホームページで、レシピを有料でダウンロードするたびに、課金の一部が寄付金となる、というものであった。レシピの考案者はミシュランガイドの星を獲得している有名店の女性シェフである。彼女は、わさびや長ねぎなど、日本の食材をベースにしたレシピを多数発表しており、食材の元となっている国の危機を救いたいという思いで募金を発案した、とインタビューで語っている。

これらの報道以外にも、日本酒を扱うレストランが売上の一部を寄付金とするイベントを発表するなど、日本食・アジア系レストランで行われるイベント、日本関係者を集めたイベントでのチャリティ活動が行われている。

2 JETAA ニューヨーク支部主催 “Fundraiser for Japan” イベントについて

そんな中、去る4月5日、JETAA ニューヨーク支部主催（New York De Volunteer 共催）の東日本大震災募金イベントがミッドタウンにあるスレートというバーで開催された。参加費一人当たり25ドルと、飲食費の10%が募金に充てられる。

元JET参加者のみならず、日本団体関係者が多数訪れていた。日系の放送局も取材に詰めかけ、後日その様子が全国放送されていた。JETAA ニューヨーク支部元JET参加者による呼びかけで集まった方々、日本人関係者、日系団体関係者を含めて約300人が集まり、寄付金額は一晚で10、

700 ドルに上った。日系企業のみならず、現地企業からも40社以上の協賛があり、その多くの協賛企業は元JET 参加者が勤務している会社である。懇談、協賛企業のプレゼントの抽選会も二度行われ、3時間のイベントは成功裏に終わった。



“Fundraiser for Japan” 会場内の様子
紙袋には、協賛企業の景品抽選番号札を入れる。
日系放送局の取材陣も数社詰めかけた。



写真中央右手で、協賛企業からの景品抽選発表
等が行われた。

このイベントの参加者で、JET プログラムを初めて知る人もおり、JET プログラムとはどのようなプログラムであるか、また、JET 参加者のサポート体制はどのようになっているのか、日本にいるJET 参加者を支援するためにはどういうことが考えられるか、などの質問を筆者自身に受けた。これを機会に、JET プログラムへの関心も喚起されていたのではないかと、思う。

JETAA のニューヨーク支部のみならず、他の支部でも日本を助けたいという元JET 参加者による募金活動が活発化している。また、4月までに行われたイベント以外にも、今後に東日本大震災チャリティイベントの今後の開催を企画している支部もあり、震災を機に、日本を助けたいという機運の盛り上がりを実感する。

3 所感

東日本大震災のチャリティ募金のあり方が日米でかなり異なることに最初は驚いたが、飲食にかかる費用からの募金だと、気軽に募金に参加できるというメリットがあると感じた。また、募金活動のためにイベントをする、というよりイベントの収入を募金に充てるという感じで、関係者が楽しそうにイベントを企画・進行していた姿が印象深い。

また、JETAANY 支部が、関係者を組織することに慣れていることに感心した。そうでなければ、あれだけの大人数のイベントを成功に導くことは不可能だろう。

東日本大震災をきっかけとして、JETAA 各支部が日本へのチャリティ活動を本格化させている。JETAA 支部の募金活動の様子を伝えてゆきたいと思う。

(兼次所長補佐 沖縄県派遣)